



< 第 5 期 >

報 告 書

平成23年4月1日～平成24年3月31日



特種東海製紙株式会社

TOKUSHU TOKAI PAPER CO., LTD.

証券コード 3708



株主の皆様におかれましては、平素より当社グループに対して格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ここに当社第5期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の報告書をお手許にお届け申し上げます。

本年度から平成26年3月期を最終年度とする3ヵ年計画、「第2次中期経営計画」がスタートいたしました。「深化。そして、進化。」を基本テーマに掲げ、最終年度「売上高900億円 経常利益45億円 経常利益率5%」を達成するため、基盤事業の徹底的な強化と更なる成長に向けた新たな変化を目指した諸施策を推進中です。

また、当連結会計年度から関係会社において、完全子会社であった大一コンテナ（株）の株式70%を段ボールメーカー大手の（株）トーモクに譲渡し、一方、取引先である（株）竹尾の株式を追加取得したことにより、両社とも持分法適用関連会社となりました。これにより当社グループは、特種東海製紙（株）、子会社9社および関連会社5社で構成することとなりました。

当社グループは、段ボール原紙・クラフト紙を主軸とした「産業素材事業グループ」、ファンシーペーパー・高級印刷用紙・機能紙の「特殊素材事業グループ」、ペーパータオル・トイレットペーパーにウォーター事業を加えた「生活商品事業グループ」の3事業グループで構成しています。中期経営計画の目標を達成するには、どの事業においても「深化。そして、進化。」が不可欠と考えております。「財務基盤の強化」「事業基盤の強化」「事業基盤の安定化」「販売力の強化」の深化と、「企業環境の整備と新分野への進出」「環境事業の推進」「新製品開発ならびに新技術開拓」「海外進出」の進化の2面から取り組み、事業計画の達成に向け邁進してまいり所存ですので、何卒、倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 三澤 清利

第2次中期経営計画のスタートと諸施策

Q 基盤事業の強化施策の取り組みについて教えてください。

A ①財務基盤の強化

バランスシートの状況を鑑みた財務基盤強化策として、将来のIFRS導入にともなう時価会計も念頭に、保有株式を精査の上、順次売却し、経営上、自主コントロールできない要素を出来るだけ排除することとしました。また、並行して、株主価値ならびに資産回転率の向上を図るため、発行済株式数の9.7%にあたる自己株式15,999千株を取得しました。

②事業基盤の強化

固定資産における減損会計のグルーピングを経営管理の単位と整合性を図り、資産のグルーピング単位を「主として管理会計上の事業所」単位から「主として管理会計上の製品群」単位といたしました。このグルーピング単位で減損損失の認識の要否を検討した結果、一部の「製品群」について減損損失2,926百万円を特別損失として計上しました。

同時に、保有資産の使用可能性について検討した結果、不要と判断した資産を売却し、固定資産売却損1,111百万円を特別損失として計上しました。

③事業基盤の安定化

段ボール製造業の「大一コンテナ（株）」は事業環境が厳しさを増す中、当社グループの経営だけでは抜本的な建て直しは難しいと判断し、当社段ボール原紙の主要ユーザーである段ボールメーカー大手の「（株）トーモク」に同社の経営を委ねるため70%の株式を譲渡し合併事業として再出発させると共に、これを機に「（株）トーモク」ともより連携を深めて、事業の安定化のみならず領域の拡張に繋げていきたいと考えています。

また、子会社の「東海加工紙（株）」では、平成25年春の完成を目指して新加工工場・新本社の建設工事を推進中で、クリーンな工場の建設により食品・医療・建材分野や新分野への取り組みを強化しつつ、生産の効率化を図ります。

Q 今後の成長戦略についてお聞かせください。

A ①強みを活かした提携

当社主力製品のひとつであるファンシーペーパーの主要代理店「（株）竹尾」の株式を追加取得し、発行済株式の20.9%を保有したため持分法適用関連会社となりました。今後はさらに連携強化を図り、成熟化したファンシーペーパー市場での安定的な販売や、新商品開発や新市場開拓な

どに繋げていくことができると期待しています。

②環境事業の推進

「三島工場」ではRPF／木質チップを燃料とした新ボイラを建設中で、本年7月の稼動を予定し、さらなるエネルギーコストの削減とCO₂排出量の削減を実現します。これに関連し、RPF燃料製造事業の当社子会社「㈱レックス」が、三島工場向けにRPF燃料の増産・供給拡大を行っていく予定です。

③新製品開発・販売

主に特殊素材事業についての新製品の開発・新技術の開拓に全力を傾注し、開発スピードを速めています。

開発中の新技術の一例を挙げると次のとおりです。

【CNT（カーボン・ナノ・チューブ）ペーパー】

ナノサイズの非常に細い炭素成分の繊維を、紙の中に3次元に均一に分散させたもので、電磁波ノイズ吸収体、電磁波シールド材、面状発熱体、電池部材等の用途展開が期待され、関連する技術も含めて様々な角度から製品化を試みています。

【リチウムイオン二次電池向けセパレータ開発】

セルロースを材料として用いて、既存の微多孔フィルムや不織布と比較して優れた特徴を活かし、製品化を目指しています。

【放射性物質除去シート（ゼオライト不織布）】

結露防止シートや調湿シートで長年培った不織布製造の技術及び知見を応用し、放射性物質が飛散や移着しにくい

材料と技術を利用して、不織布と不織布の間にゼオライトを均一に固着させた放射性物質除去シートを開発し、実証試験を経て実用化に取り組んでいます。

④海外展開

製紙業界を取り巻く環境は、国内需要の今後大きな伸びは期待できず、国内市場だけでの成長は難しいと判断し、海外でも競争力があると見込まれる特殊素材事業を核にして、成長著しいアジア市場を中心に、生産拠点の確保及び販売ルートの確立を目指しています。

台湾の「中日特種紙廠股份有限公司」との提携は順調に進行し、台湾大手の「正隆股份有限公司」とはアジア市場向けの機能紙の共同開発を開始しています。

両社とも台湾市場のみならず、アジア市場において事業展開の経験が豊富であることからアジアの特殊紙ニーズを開拓することを目指しています。

Q

平成25年3月期の業績見通しについてお聞かせください。

A

国内景気は回復基調が期待されるものの、円高に加え、原燃料価格の高止まりや電力供給不安などの懸念材料が存在し、依然として厳しい経営環境が続くものと予想されます。このような状況の中、当社グループは、第2次中期経営計画を着実に実行し、継続的な収益確保に努めます。

平成25年3月期の連結業績につきましては、売上高78,000百万円、営業利益4,200百万円、経常利益4,000百万円、当期純利益2,200百万円を見込んでいます。

経営の基本テーマ

目標とする経営指標

売上高900億円以上 経常利益45億円以上 経常利益率5.0%以上

基本テーマ

深化。そして、進化。

深化：基盤事業の徹底的な強化

進化：成長路線に向けた新たな変化

深化

基盤事業の徹底的な強化

財務基盤の強化

自己株式の取得

株式の売却

事業基盤の強化

減損損失の計上

東海加工紙炭

新加工工場建設

事業基盤の安定化

大ーコンテナー(株)

関連会社化

販売力の強化

Pam & 紙わざ大賞

進化

成長路線に向けた新たな変化

強みを活かした提携

㈱竹尾の株式取得

環境事業の推進

三島RPF／木質チップ燃焼ボイラー

レックスRPF工場

新製品開発・販売

CNTペーパー

LIB向けセパレータ

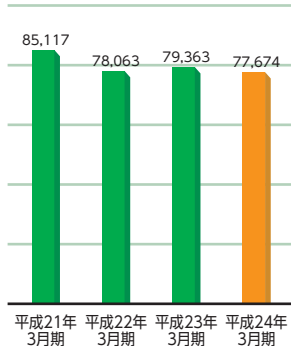
海外展開

中日特種紙との提携

連結財務ハイライト

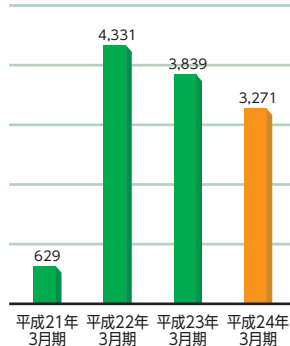
売上高

(単位: 百万円)



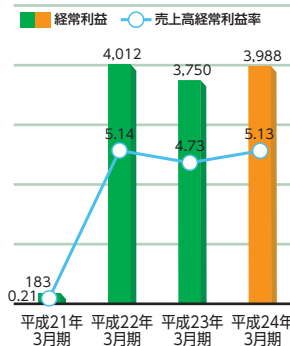
営業利益

(単位: 百万円)



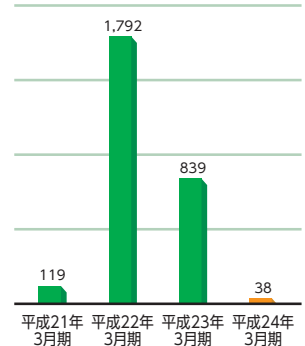
経常利益／売上高経常利益率

(単位: 百万円、%)



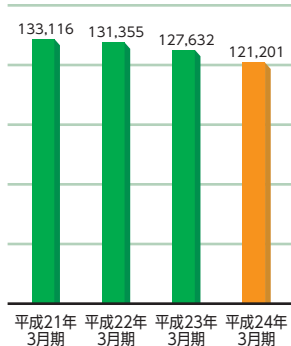
当期純利益

(単位: 百万円)



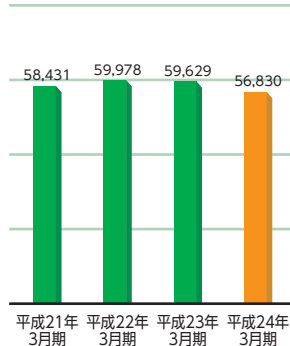
総資産

(単位: 百万円)



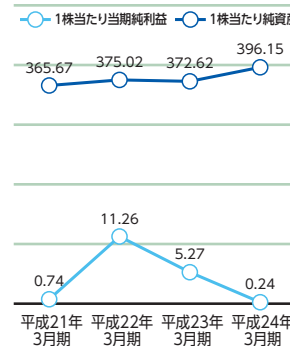
純資産

(単位: 百万円)



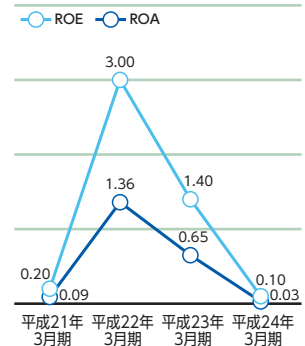
1株当たり当期純利益／1株当たり純資産

(単位: 円)



ROE／ROA

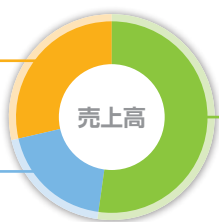
(単位: %)



セグメント別構成比率

生活商品事業
28.4%
14,480百万円
(前期比▲5.5%)

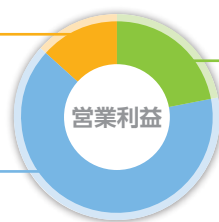
特殊素材事業
19.2%
21,375百万円
(前期比▲5.2%)



産業素材事業
52.4%
39,457百万円
(前期比▲1.1%)

生活商品事業
13.2%
439百万円
(前期比▲38.6%)

特殊素材事業
64.8%
2,147百万円
(前期比▲14.6%)



産業素材事業
22.0%
729百万円
(前期比▲24.2%)

連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成24年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成23年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	44,007	44,751
固定資産	77,194	82,880
有形固定資産	62,720	68,124
無形固定資産	1,071	1,043
投資その他の資産	13,402	13,712
① 資産合計	121,201	127,632
(負債の部)		
流動負債	51,594	45,491
固定負債	12,777	22,510
② 負債合計	64,371	68,002
(純資産の部)		
資本金	11,485	11,485
資本剰余金	14,452	14,463
利益剰余金	34,541	34,425
自己株式	△ 4,041	△ 1,094
その他の包括利益累計額	163	110
新株予約権	76	70
少数株主持分	153	169
③ 純資産合計	56,830	59,629
負債及び純資産合計	121,201	127,632

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point

①総資産 121,201百万円 (前期比△6,430百万円)

主な要因は減損損失の計上により有形固定資産が減少したためです。

②負債 64,371百万円 (前期比△3,631百万円)

主な要因は借入金の減少です。

③純資産 56,830百万円 (前期比△2,799百万円)

主な要因は自己株式の取得によるものです。

④特別損失 4,618百万円 (前期比△2,980百万円)

主な要因は減損損失と固定資産除去損の計上によるものです。

連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成23年4月 1日から 平成24年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで)
売上高	77,674	79,363
売上原価	63,171	63,811
売上総利益	14,503	15,551
販売費及び一般管理費	11,231	11,711
営業利益	3,271	3,839
営業外収益	1,417	710
営業外費用	700	799
経常利益	3,988	3,750
特別利益	496	16
④ 特別損失	4,618	1,638
税金等調整前当期純利益または純損失(△)	△ 133	2,128
法人税等合計	△ 158	1,315
少数株主損益調整前当期純利益	24	812
少数株主損失(△)	△ 13	△ 26
当期純利益	38	839

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成23年4月 1日から 平成24年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成22年4月 1日から 平成23年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,399	9,805
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,963	△5,019
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,142	△4,669
現金及び現金同等物に係る換算差額	△0	△0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,705	116
現金及び現金同等物の期首残高	10,238	10,108
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	14
現金及び現金同等物の期末残高	6,532	10,238

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

●第22回紙わざ大賞の作品募集

「紙わざ大賞」は紙という素材を追求した当社が主催する“ペーパーアート”のコンペティションです。紙という素材を追求した「紙わざ」作品を現在募集しています。

審査員に日比野克彦氏（アーティスト）、福田美蘭氏（画家）をお招きし、大賞を決定します。大賞他優秀作品は平成24年10月11日～14日に東京「銀座十字屋ホール」で開催する展覧会で展示を予定しています。

応募要領は

<http://www.tt-paper.co.jp/kamiwaza/boshu.html>

をご覧ください。



●「ばらの丘公園・ばらの館」営業開始

当社グループの㈱東海フォレストは平成24年4月1日から静岡県島田市にある「ばらの丘公園・ばらの館」の営業を開始しました。これは島田市の公設民営・指定管理者制度により運営するものです。

ばらの丘公園は、島田市の花であるバラを通じて街づくりをしていく市民のバラ園です。

広さ約6,000坪（うち温室300坪）の敷地に世界各国のバラ約360種類、約8,700株が植えられ、春と秋のバラのシーズンは公園中にバラが咲き、憩いと安らぎの場を提供していきます。また、ばらの館にはレストランや雑貨ショップとアイスクリームショップがあります。近くにお越しの際は是非ご来場ください。

●ホームページ <http://baranookakouen.jp/index.html>



テープカットの様子



バラ園内の風景

●BLUEウォーターに新商品

「選べる天然水・ウォーターサーバー」のBLUEウォーターは当社が運営する水宅配事業です。専用ウォーターサーバーはレンタル無料で、12リットルの天然水ボトルをワンウェイ方式で本州、四国、九州のお客様に配送しています。

これまでは「富士のパナジウム天然水」「古都のみやび天然水」「日田の天然水」の3種類からお選びいただきましたが、このたび島根県金城町で採水された「金城の華」がラインナップに加わりました。モンドセレクション平成23年度最高金賞受賞した金城の華は純天然のアルカリイオン水で、その生きたおいしさをお届けしています。

詳しくはホームページまたはお電話からお尋ねください。

●ホームページ <http://www.b-water.jp/index.html>

●フリーダイヤル 0120-4132-67（よいみずむだなし）



●ボイラマシン新設および東海加工紙(株)本社工場建設

三島工場では平成24年7月稼働に向けたRPF／木質チップ燃焼ボイラの建設が進行中です。新ボイラの稼働により、エネルギーコストの低減とCO₂排出量の削減による更なる環境負荷の低下に貢献できると考えています。

当社グループの東海加工紙(株)は新分野への拡販推進を方針に本社工場を建設中です。ラミネーターマシンのS&Bと食品分野、建材、医療分野に対応できるよう設備改善およびクリーン化を図るとともに点在している本社・各工場を集約し業務効率の向上も期待しており、平成25年2月竣工を目指しています。



三島工場新ボイラ建設の様子



東海加工紙(株)本社工場建設の様子

第5期期末配当金について

平成24年6月27日に開催した第5回定時株主総会におきまして、1株当たり2円50銭の期末配当が決議され、6月28日からお支払いを開始させていただきます。

今回の配当金は「その他資本剰余金」を配当原資とするため「資本の払戻し」に該当し、「利益剰余金」を配当原資とする配当とは税金計算上の取扱いが異なります。

詳細は本報告書に同封しております「第5期期末配当金に関するご説明」をご高覧くださいませようお願い申し上げます。

なお、弊社ホームページでも配当に関するご説明とFAQを掲載しておりますので、ご案内申し上げます。

ホームページアドレス <http://www.tt-paper.co.jp/>

期末配当に関する事項

決 議	平成24年6月27日 第5回定時株主総会
株式の種類	普通株式
配当金の総額	358,694,735円
配当の原資	資本剰余金
1株当たり配当額	2円50銭
基準日	平成24年3月31日
効力発生日	平成24年6月28日

役 員（平成24年6月27日現在）

代表取締役社長	三 澤 清 利
専務取締役	三 宅 博
専務取締役	梅 原 淳
常務取締役	斎 藤 純
常務取締役	紅 林 昌 巳
取 締 役	関 根 常 夫
取 締 役	大 島 一 宏
取 締 役	落 合 一 彦
取 締 役	松 田 裕 司
取 締 役（社外取締役）	石 川 達 紘
常任監査役（常勤監査役）	三 谷 充 弘
監 査 役（社外監査役）	大 倉 喜 彦
監 査 役（社外監査役）	志 賀 こ ず 江

会社概要（平成24年6月27日現在）

商号	特種東海製紙株式会社
英文名	Tokushu Tokai Paper Co., Ltd.
事業内容	紙パルプの製造・加工・販売および子会社の経営管理等
資本金	1,148,520万円
事業年度	4月1日から翌年の3月31日
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部（コード：3708）
設立年月日	平成19年4月2日
本社	東京都中央区八重洲2丁目4番地1号
本店	静岡県島田市向島町4379番地
事業所	三島工場、島田工場、横井工場、岐阜工場 中部営業所、中部営業所静岡事務所、 大阪営業所、静岡オフィス（新設）

グループ企業（平成24年3月31日現在）

会社名	主な事業
株式会社リソース東海	製紙原料の仕入・販売、製材品の仕入・販売
株式会社東海フォレスト	土木、造園緑化、山林事業、観光
株式会社レックス	一般廃棄物・産業廃棄物の収集、運搬、加工処理および売買
株式会社テクノサポート	構内作業業務、設備保全業務、重油・産業廃棄物搬送業務
静岡ロジスティクス株式会社	運送業、倉庫業、保険代理業、リース業、酒類販売
特種紙商事株式会社	特殊機能紙・保護紙・画材用紙・エレクトロニクス関連用紙・加工品等の販売
特種メーテル株式会社	特殊紙製造、医療用機能性シート、緩衝・保護包装紙の製造・販売
東海加工紙株式会社	ペーパータオルなど各種業務用品の製造、販売、各種産業用資材の加工、販売
明治製紙株式会社	家庭紙（トイレット、タオルペーパー）の製造販売

株主優待品のご案内

当社は株主の皆様の格別なご高配に感謝するとともに、株主優待を通じて個人を中心とした投資者層の拡大を図り、より多くの皆様に当社及び当社グループについて一層ご理解いただくことを目的として、株主優待制度を導入しております。

このたび、当社グループ製品への一層のご理解と株主の皆様の利便性を高めることを目的として、平成24年3月31日現在に1,000株（1単元）以上を保有する株主様への優待品から次のとおりお選びいただけるよう変更しております。

なお、優待品を指定いただかなかった場合、または指定が期日に間に合わなかった場合は「タウパー・ポップペーパー（150枚入り）12個」をお届けいたしますのでご了承ください。

また、9月末日基準の株主様に贈呈しております「当社特製カレンダー」は引き続きお送りいたします。

次の1～3の中からお選びいただけます。

1. タウパー・ポップペーパー
150枚入り 12個（東海加工紙株式会社製）



2. トイレットペーパー
12ロール入り 8パック（明治製紙株式会社製）



3. ファンシー文具セット
B6丸背製ノート（緑色）1冊
+ 豆本カードスタンド（本文・緑色）1冊



ご優待品は7月下旬以降にお届けする予定でございますので、ご愛用いただければ幸いです。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料、平日9:00～17:00) http://www.tr.mufj.jp/daikou/

（上記は、特別口座に記録された株式に関する各種お手続き先ならびに郵送物等の発送と返戻、支払期間経過後の配当金および株式事務に関する一般事項のご照会先となっております。ご登録住所等の変更手続きをされる場合は、お取引口座のある証券会社等へお問い合わせください。）

同 取 次 所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公 告 方 法 当社ホームページ上に掲載
<http://www.tt-paper.co.jp/ir/denshi.html>
ただし、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載

単元未満株式買取りおよび買増し制度のご案内

単元未満株式（1～999株）につきましては、証券取引所での売買を行うことができませんが、当社では単元未満株式（1～999株）の買取りおよび買増し制度を実施しており、単元未満株式をご売却またはご購入することができます。

単元未満株式買取り制度

株主様がご所有する単元未満株式を株主様のご請求により、当社が買い取らせていただく制度です。

単元未満株式買増し制度

株主様がご所有する単元未満株式とあわせて1単元（1,000株）となるよう不足分の単元未満株式の売渡しを当社にご請求いただく制度です。

お手続きについて

買取り請求（ご売却）、買増し請求（ご購入）に関するご相談、お問い合わせは、お取引の証券会社または左記の当社株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部）までお申し出ください。



表紙：千枚岳からの塩見岳と間ノ岳
撮影：白旗史朗
用紙：ミセスBグリーン
ホワイト